

【革新的な新品種の開発（研究計画概要）】

ジャガイモシストセンチュウ類とウイルス病に抵抗性を持つ
多収バレイショ品種の開発

研究期間：令和8年度～令和10年度

研究機関：農研機構北海道農業研究センター

共同研究機関：北海道立総合研究機構北見農業試験場、鹿児島県農業総合開発センター、
ばれいしょ加工適性研究会（日本特産農作物種苗協会）

協力機関：農研機構種苗管理センター、網走農業改良普及センター

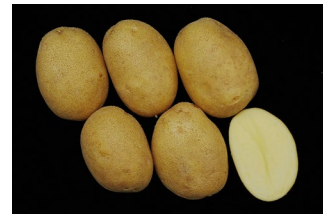
1. 研究背景・目的

近年、ジャガイモシストセンチュウ類（PCN）の発生地拡大や種いも生産にかかる負担の大きさから種イモの生産量が減少傾向にあり、種イモの安定供給やバレイショの安定生産の継続が懸念されている。そのため本研究では、PCNの発生拡大防止と種イモ生産者の負担軽減につなげるため、**PCNとウイルス病に複合抵抗性を有する多収の品種候補（でん粉用又は加工用）を一つ以上開発**する。PCNについてはでん粉原料用ではジャガイモシストセンチュウ（Gr）及びジャガイモシロシストセンチュウ（Gp）、加工用ではGr抵抗性を付与する。

ジャガイモシストセンチュウのシスト(左)
およびウイルス病の葉(右)

2. 研究内容

- 1) PCNとジャガイモYウイルス(PVY)に複合抵抗性を示す品種候補を開発するため、育成系統の病虫害抵抗性DNAマーカー選抜を行うとともに、複合抵抗性を有する有望系統は生産力検定試験において栽培特性等を評価する。**でん粉用又は加工用の品種候補を一つ以上開発**し、種いもの増殖試験を行う。（北農研）
- 2) 有望系統の北海道（オホーツク地域）での適応性を評価して品種候補を選定する。（道総研北見農試）
- 3) 有望系統の西南暖地での適応性を評価して品種候補を選定する。（鹿児島県農開セ）
- 4) 実需者による有望系統の加工適性評価を行う。（加工適性研究会）



有望系統の塊茎

3. 達成目標

PCNおよびPVYに抵抗性を示し、既存品種より多収でと同等以上の栽培・加工特性を有するバレイショ品種候補（Gp+Gr抵抗性でん粉用又はGr抵抗性加工用）を開発する（研究終了時まで）。

開発した品種候補は令和12年度までに品種登録出願を行う。